

平成31年3月21日

「平成30年度 第4回 阿南市在宅医療・介護連携推進会議」会議録

日時 平成31年3月19日（火）
午後7時30分から午後8時30分まで

場所 阿南市役所 6階 604会議室

内容

- 議題1 阿南市在宅医療介護連携事業の活動報告について
資料「阿南市在宅医療・介護連携支援センターの取り組み状況について」を基に説明を行う。

- 議題2 多職種連携研修会（阿南市医師会）について
在宅医療・介護連携支援センター作成のA4チラシにより、内容の確認を行う。
参加者については各委員から所属・氏名を報告していただくこととし、定員70名に満たない場合は、阿南高齢者お世話センターから各事業所等に対し参加の呼び掛けをしていただくよう依頼する。

- 議題3 来年度の事業計画（案）について
「阿南市在宅医療・介護連携における課題」のフローチャートを示しながら説明を行う。

（介護・ながいき課所属の委員から）

課題の解決策についての方針が見えにくい。課題の抽出は完了しているのか、それらの課題についてどのように解決を図っていくのか詳しく説明していく必要がある。

高齢者お世話センターの機能の活用や連携について触れられていない。本事業における高齢者お世話センターの位置付けを明確化するべき。

本事業が目指すべきゴール地点を明らかにする必要がある。研修会の開催だけでなく、抽出された課題の解決に向けた次の方策も考えていかなければいけない。

（訪問看護ステーション所属の委員から）

在宅医療・介護連携支援センターのこれまでの取組により、阿南市における課題がたくさん抽出されている。今後は本会議においてそれらに優先順位を付け、解決に向けた取組を図ってはどうか。1つずつ確実に取組を進めていくことが重要である。

（訪問介護事業所所属の委員から）

訪問介護事業所同士の横の繋がりが希薄である。在宅医療・介護連携推進事業を進めていく上で、訪問介護事業所連絡会がある方がよいと考える。市内の訪問介護事業所同士でも顔も知らないのが現状である。

(医師会所属の委員から)

どの分野がどのような課題を抱えているのか、それは量的なものか、それとも質的なものなのか、課題の解決には人材育成が必要なのか、あるいは資金が必要なのかといったことを把握することは必要だが、それよりも重要なことは今ある資源をどのように活用していくかである。

在宅医療・介護連携支援センターとしては、脳疾患で寝たきりとなったケースやがん末期のケースなど具体的なモデルケースの積み重ねにより、訪問看護事業所等と連携しながら課題の抽出を行い、それを本会議において検証してみてはどうか。

(介護・ながいき課事務局から)

来年度においては、高齢者お世話センターが開催する地域ケア会議のうち、医療に関する課題を抱えるケースについては在宅医療・介護連携支援センターが出席することとなっている。

(訪問看護ステーション所属の委員から)

マンパワーが不足する現状にあって、在宅医療・介護連携に対してはどれ程のニーズがあるのか。阿南市の5年後、10年後を見据えながらニーズを数値により「見える化」し、それらに対して事業を着実に継続して育てていけばよいのではないかと考える。

(医師会所属の委員から)

本市の医療における最大の課題は、在宅を支えるべき拠点である回復期病床が圧倒的に不足していることである。加えて、看護師の不足等により病床数そのものを削減する病院が出てきている。

医療系のマンパワーが減少する中で本市を取り巻く環境は厳しいが、理想論ではなく出来ることを確実に積み上げていくべきだと考える。

(歯科医師会所属の委員から)

歯科の現場では在宅に入る医師と入らない医師とがはっきり分かれている。歯科医師数は多いと言われているが、在宅におけるニーズに全て対応することは不可能であるため、どこで線引きしていくかという課題もある。「在宅歯科医療連携室南部連携室」が設置されたので、サービスに対する費用対効果の視点も含め、在宅におけるニーズを把握していきたい。

(理学療法士会所属の委員から)

徳島市と比較して、阿南市では病院から介護老人保健施設に直接繋がれることが多く、中間病床を経由するケースがほとんどないと感じている。リハビリ

職においてもマンパワー不足を実感しており、今後どのように対応していくべきかという不安がある。

次回開催は平成31年7月を予定している。